

刊夕日八廿月八

常警日新聞

定額一圓五錢 月刊五拾五錢 郵費五錢
廣告料五錢 十二字一圓 一行五拾錢
日曜祭日の日休刊
發行所 常警日新聞社
電話 六二〇〇
印刷所 常警日新聞印刷株式會社



情なる所

鍵家彌の助

工場の留守番なんか腰の落つがな。若い者より、老人が好いと職業紹介所へ頼んでおいた。すると去年の秋そろそろ冷え込む頃、實直らしい獨身者が目見得にやつて来た。

六十を越して居るかと思つたら未だ五十の坂を越えた許りの事苦勞の度重つてか老けきつて居た。

市内に保證人もあり給料も此方の云ふ通りに雇つてみた。まめに働くに満洲の領事館にも居たとか几帳面な處もあり存外さばけた處もあつて好々爺らしく安心して居た。雇入れてまだ一ヶ月餘りの年内餘日も廿日に迫る或る午後、井戸に水を汲みに行つたとき戻つて来ない。如何したのがと思ふとやがて一人の職工に背負はれて留守番部屋に戻つて来た。顔色青ざめて手足の自由を失つて居る井戸端に倒れて居たのださうだ意識は明瞭だつたので職工の家に世話を頼んだ。中は判る手真似（右の手だけ）と如何やら判る言葉とに依つて兄弟らしい處知人らしい處保證人の處等へ人を走らせるやら手紙を

出した。薄給故翌日深川市立病院の診察を乞ふた。腦溢血に依る半身不随との事で回復せぬを條件に入院は拒絶され、再びタクシーの除行で留守番部屋に安静すべく命せられた。

ノート

新しい塗物の臭いは米櫃の中に入れておくといふ

解雇されては一大事の氣性の表現が殆ど奇蹟的に手も自由になつた。多少よけるが立てゝもきた。約十日許りで……けれ共再發は免れまいと後釜を物色しながら兄弟の返事知人保證人の便りを待つた冬至も過ぎたが音沙汰なく昭和八年の春を迎へた。後釜もより以上の人が見つかり餘儀なく解雇の形で只可あいさうなることが爲めに別棟の家に静養させられる身となつた。返事が来た便りがあつたけれど『氣の毒だが引取かねる』とか『今の二階借りの身では』等何れも山家の育ちと云つた形に方面委員の手を煩はす事となつた。之等の便りを一まとめに本人が云ふ處の若いうちの放埒に親戚で鼻つまみ連子があつたが不良の群に入つて

の行衛不明の書類等も添えて懇願してみた。主人としても當人としても氣の毒など手續を取る第一歩として、謄本、診断書が入用となつた。そしてから養育院へが順序だ。診断書は直ぐ取れたが謄本は郷里が愛媛縣だ休日がはさまつたりして遅延する。杖をついて歩く外は本を讀む位の處在なさ、保護して居る位だから食事健康な人程面倒みられなく控勝ちだが因果と空腹するのがあの病一生命急いで持つてやるつもりが延び……て謄本がやつとまとまつて市はから入院の許可の出る迄調べに調べるとみえて雪にの如月花の彌生と迄なつた

向つて『手續を取るからなんて嘘ばかりだこんな家は此方で御免蒙る出れば他人だ何を仕様と勝手だ何處かへ火を付けてやる、すればつかまるさうすりや如何にかならあ』と云つたとの話だが何といふ淺ましい考へだらう日々安樂に食へてゐられたのに

萬一實現せんと計りがたない、氣味の中に時はきて命令送致書も手にして始めて我々の心をくんでくれ老の兩眼に光る物を見せ又職工の厚い手引で青葉繁る養老院へ入院した。姓は平谷、名は彌五郎幸ひ健在なれ。

地相 前島野
家相 易澤
人事 斷定
鑑定 所象

【書】あのか汁―煮ぬきののこ 竹輪 人蔘 里芋 しひたけ ずあんかけ

病人にも春は惱しいと見える。まして體が思ふ様にならぬから有難いと思ふべき事も呪はしく田甫道をよろけながら派出所へ訴へたり巡査からお金を頂いたりやがては形相物凄く職工達

科人婦・科外
院醫坂井
町田町平
番九五五話電

豚 肉 蒲 鉾
屋三二三 町田

三井タクシー
番五八六話電 目丁二町平

故喜代三儀 本年新盆に相當候得共時節柄提灯其他供物等一切御辭退申上候に付豫め得貴意度候也
平町研町十三番地
佐々木喜平

故福太郎儀 本年新盆に相當り候得共時節柄提灯其他供物一切乍勝手固く御辭退申上候
平三丁目
高木や本店

故吉田禮次郎儀 新盆に相當り候得共提灯供物其他金品一切御贈與の儀固御辭退申上候間不惡御了承願上候
昭八年八月
平白銀町
吉田新聞店

故末吉儀新盆に相當り候得共提灯供物其他金品一切御贈與の儀固く御辭退申上候
昭八年八月
五丁目
金光堂時計店

拜啓金連院 今年新盆に相當り候處甚だ乍勝手佛前へ御寄贈等は時節柄御遠慮申上候間不惡御諒承被下度此段御通知申上候
昭八年舊七月
二丁目
田卷造酒之助

故正男 儀新盆に相當り候得共時節柄提灯供物其他一切勝手ながら御辭退申上候
平町材木町十七番地
藤田儀三郎

敬具

月曜是非

七夕祭の賑ひ

本年平町の七夕祭りは偶然とは云ひながら、申し合せた様に、色様な短冊や飾り物の笹竹が、軒並びに押し立てられて街頭を美化した。

従来も七夕には飾り付けの笹竹を立てる慣習にはなつて居たが、本年の如く各戸夫々意匠を凝して一個の見ものとしての價値を充分具備する迄に趣向を練つた七夕の飾り物は全く珍らしい、お蔭でその夜の平町は此の珍らしい一風景が見る人々の絶讃を博して非常な賑ひを呈し、本町通りは往來の人が雪崩の様に雑踏した。

機を見るに敏な商店は早速此の七夕飾りを商略に利用して客を呼んで居たがよい思ひ付きであると思ふ。現代の文化は一面人の生活を迫害して、ゆとりのないせこましいものに追ひ詰めて仕舞ふ、従つて古來の慣習の如きは年々萎靡衰頹して殆んど其の影を型無しにする、折角祖先の遺した年中の行事等も顧るに暇のない事を以つて寧ろ新しい時代生活の誇りと誤信して居る不慮存者もある。せめて年に幾度かは祖先の息を現代の生活に通はして其處に懐古的なほゝ笑ましい生活上のオアシスを發見したい、是れはとりも直さず祖先が、吾々の生活の

上に變つて疲れる吾々を慰藉して呉れるのである、然も其處に濃厚な郷土色がハツキリと描れる事に依つて吾人を生んだ土に對する親し味と懐しさの愛着を深からしめる。

不平等の

農會と聯合し

町村長が運動

具体案附議

石城町村長支會では来る卅日午前十時より平町會議室に於いて總會を開き目下全縣下の問題となつて居る國民負擔の不均衡是正に關する負擔軽減の陳情には町村農會と聯合して當るべく是が具体案を協議し尙支會評議員補欠選舉其他を附議すると

譽れの戦勝

神前に奉告

榮えある平商の庭球選手が凱旋

平商庭球部が去る二十四日より三日間仙臺市東北學院中學部コートに於いて開催された北日本中等學校庭球選手權大會に見事強敵を撃破して優勝榮ある優勝旗をその手に收め全日本大會の出場權を獲得した事は既報の如くであるが此の譽れの選手たる木田、安島組、本田、塚本組の一行は昨日室原部長に引率されて平驛午後三時十七分着にて堂々と凱旋各關係者多數の出迎

社及び飯野八幡神社に参拜りや近く来る孟蘭盆會の催しの如き衰ひさせたくないと思つて居る折柄、本年の七夕祭りが異常な賑しさを來した現象を見て吾人は悦びを感ずる一人である。

選手を招待

祝賀會開催

平商友會にては昨日午後四時よりマルトホールに於いて凱旋庭球選手を招待し戦勝祝賀會を催したが出席者多數にて頗る盛會であつた

御祝儀相場より

高値となる

四倉の繭取引

貫數も俄然激増

四倉繭市場の第二日取引である昨廿七日の貫數は俄然激増し取引相場も初日の御祝儀相場より稍高値を見る等益々活況を呈して居る、二日目取引左の如くである(白繭)千四百七十貫(最高)四十二圓五十錢(最低)三十二圓(剛)三十七圓七十錢

産馬補助

九百十三圓

石城産馬畜産組合では豫てより農林省に對し國庫補助申請中の處今回九百十三圓の補助ある旨の指令に接した

三丁目勝つ

軟球の決勝

既報平町軟式野球大會三丁目對アルプスの決勝は去る二十六日午後二時より平商球場に於て舉行されたが戦績は左の如く五A對一のスコアにて三丁目大勝した

平百面鏡

二割引の

大勉強で

正木織物店奉仕

新町正木織物店では開業三十五週年を記念し顧客への奉仕に目下二割引で註文に應じ大勉強振りを發揮して居るが同店の確實さは既に定評ある事として引きも切らぬ註文が殺到し大繁昌である

平樂評判

サービス満點

カフェー平樂は去る十四日より二丁目横町警察署通りに新築移轉したがコックさんは東都一流の腕利き女給さんのサービス振りまた評判よく店内賑る賑つて居る

戒名入り提灯

丁目スガヤ提灯店では目下御新佛の戒名入り提灯の御注文に應じて居るが御一報次第早速店員が見本持參でお伺ひすると

滿鮮から一筆

伊東

釜山公會堂にて 一體何を食つてるのか彼等は饅頭を一日の常食として居る、餡のない大きなまんじゅうの事だ、私等も食つた、とてもたゞでは食ひそうもないので砂糖をつけて食つた、一つで一食分はある、一つ一錢だ

平町人事

△紺屋町三 當時茨城縣多賀郡松原町字高萩山村五郎氏四女ヨシ子
△田町五 根本卯太郎氏三男容三郎
△石城郡豊間村字新街芳賀林次氏(三〇)鎌田町三五鈴木ナヨ(二七)
△四軒町二二 池田金五郎(七〇)

御用命印刷物の總代理 常警日印刷株式會社 電話六三〇番

懐ひ起し幾多忠勇の同胞が犠牲となつた所と思ひば歩くのも勿體ない氣がする、第一に目に付くのは山上の記念塔だ、波靜かなる旅順港の入口せまく閉塞隊の埋れた所、鶏冠山や二〇三高地も今は種かな威容を示して居る、舊市街から新市街の道路を廻つて大連に歸つた。

不良の徒

一齋檢舉

新撰組が出勤

一夜に四十九名を

平警察署では市内の興業物飲食店カフエー等を荒す不良の徒を一齋に檢舉すべく去る廿六日夜署内新撰組全員が出勤して片ツ端から取締を行ったが泥酔暴行其他四十九名を一夜の内に検束した

瀧なす流汗に

息詰る大接戦

壯観！ 武術大會
郷軍の強者等競ふ

既報石城聯合在郷軍人分會の第六回武術大會は昨日午前八時より警中講堂に於いて開催、先づ山崎分會長の開會の辭に次ぎ審判係主任の藤井少尉軍刀術早川特務曹長銃劍術の各審判上の注意あつて直ちに試合に移つたが出場選手九十餘名はいづれも各分會の代表者だけに折柄の暑熱をもつとせざ流汗淋漓眞に息詰る大接戦を演じた因に優勝成績は左の如くである

△個人成績

- (銃劍術) 1 神谷林伊平
- 2 夏井大和田傳 3 内郷大島延夫 4 入山炭礦照
- 井市太郎 5 大野吉田榮一郎 6 好間高木榮 7 田人組合蛭田義一 8 平根本好文 9 永戸組合萩野光忠 10 四倉本田豊

- 5 高久村 6 大野村 7 神谷村 8 入山炭礦 9 好間村 10 大浦村

汽車自殺の身元が判る

本月廿一日午前十一時五分小野新町驛着上り列車に飛込自殺を遂げた青年の身元は石城郡入遠野村宇關谷農義雄弟上遠野政夫(三〇)と判明前記義雄に身柄を引渡されたが政夫は十八日迄赤井村松本金治方で奉公中精神に異常を呈して無断家出し捜査中であつたと

警備委員協議

平町役場では明廿九日午後一時より警備委員會を開き自動車脚筒修繕の件其他を協議すると

大時化で

漁獲がななく

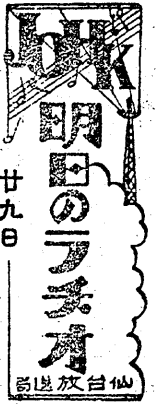
鮮魚相場騰る

石城郡下海岸は此處數日大時化に襲はれ各漁船は高い波浪を懼れて出漁を見合せて居るので平町の魚屋さんは鮮魚不足で弱り切つて

水産試験場の試作が成功し

東京方面へ販路を

石城郡小名濱水産試験場では勿來より相馬海岸に互り採取されるウニの蕃殖を利用して去る廿三日よりウニ



明日のラジオ
今夜も明日も南西の風晴曇半し驟雨模様

今晚の部

- 後六、〇〇 (子供の時間)
- 幼年童話「びつくり太鼓熱田梅子」
- 後六、二五 傳説と史蹟を採ねて(十三)「駿府殉教

共済委員任命

平町鎌田町共済委員原田精一郎氏の後任として同町岡田千藏氏が委員に任せられた新らたに設置された城山方部共済委員には會我和嘉氏が任命された

光榮に感激

五百圓を寄附

大演習犠牲者遺族に同情した小田吉次氏

既報去る廿五日横濱沖合の海軍特別大演習觀艦式に榮ある陪覽賜擧の御召を受け好間村小田吉次氏は此程歸郷し身の光榮に感激すると同時に今回の大演習の犠牲者九名の遺族に同情の餘り昨廿七日大角海軍大臣宛に五百圓の寄附を贈つて遺族を慰藉する處があつた

貧困救済

百圓

吉田氏寄附
平町白銀町吉田素氏は亡父禮次郎氏の遺志によつて舊盆の貧困者救済にと本日町役場に百圓の寄附を申出た

鞍替途中

情夫とドロ

石城郡内郷村字宮五四飲食店佐藤マツノ方抱酌婦岐阜縣上城和良村字上原二二生れ蒲生チヨ(三〇)は去る廿六日茨城縣多賀郡助川町飲食店に前借三百五十圓で鞍替の途中情夫の内郷村大字宮字金坂蒲生正利(三〇)と共に行衛を晦したと

官衙勤務時間

暑中半ドンの各官衙も後三日間の九月一日からは平常通り午後四時迄の勤務時間となる

平職業紹介所報告

- △人を求める方
- △女中 三十五迄 尋卒 月七圓(大野村某)
- △掃除夫 五十位 衣食外

明日の部

- 前七、三〇 夏期ドイツ語講座(十六) 三浦吉兵衛
- 前九、一〇 料理献立「體の三杯酢」 松本良雄
- 前一〇、三〇 婦人講座「習慣」 棚橋絢子
- 後〇、〇〇 正吹奏樂「海軍々樂隊」指揮内藤清正
- 後二、〇〇 夏期講習「人形玩具の描き方(八) 西澤笛敬
- 後六、〇〇 (子供の時間)

「パイプハーモニカと童謡」線貫譽 線貫静子

- 後六、二五 傳説と史蹟を採ねて(十四)「將門傳説の流」 藤澤衛彦
- 七、三〇 講演「滿洲國より歸りて」 永田秀次郎
- 後八、〇〇 神樂囃子「熊野神社祭典神樂」 秋田縣龜田町熊野神社神樂講中
- 後八、三〇 講演「江川政談」 骨達ひ 太田貞水
- 後九、〇〇 義太夫「卅三間堂棟由來平」 太郎住家の段「竹本越駒 鶴澤紋教

看護婦急派の求めに應じます

平町南町
平看護婦會
電話三〇七番



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第二十七回 血に飢ゆる村正

福島家に崇る妖刀
ソコデ正宗は弟子を連れ
て此處を立出で、諸國を經
遍して鎌倉へ歸りました、
是より村正は世帯を仕舞女
房春枝並に伴の太郎正俊を
連れて鎌倉へ参り久し振
りにて兄弟門弟の貞四郎貞宗
當時正宗の婿正宗の娘たが
ね、其の外圍九郎正親など
に面會して、伴の事を吳々
も頼みました、扱之より勢
洲桑名へ参りました、村正
の兩親は既に此の地に於い
て世の中を去りました後で
ございます、依つて村正は
勢洲桑名の在に庵を結んで
千住院村正法師妙台となつ
て、毎日念佛を唱へて夫婦
の者は此處に終りを遂げま
する考へ、遂に正長元年九
月三日、齡七十三才にて此
の世を去りました、此の村
正の子孫は村正の子正俊の
代に至りて終りました村正
の傳記は此の位に留めて置
きまして、之より愈々妖刀
としての村正を申し上げる
事に致します、村正の劍は
徳川代々の君に崇りを爲し
たと云ふので、幕府時代恐
ろしく之を所有する事が
嚴禁かつたので、在銘の
品は皆無と申しても、位



は籠釣瓶と稱けました村正
の内でも就中の上作でござ
います、夫れだけに又多
くの人の命を断ちました妖
刀のお話でございます、抑
々籠釣瓶と稱けましたのは
藝洲廣島備後三原兩城の主
表高四十二萬石内高八十六
萬石を領したる福島左衛門

大夫正則でございます、數
十度の戦に帯刃して、多く
の人の首をはねたが、其の
切味は無類實、に水も留ま
らぬ程であると云ふ處から
稱けて籠釣瓶といふ、戰場
に於いては實に役に立つ劍
だが、大平となつての後の
籠釣瓶は福島家に對して此
の上も無き崇りを致しまし
た、此の劍は一度抜く時は
血を見なければ納まらぬと
云ふ厄介な代物、藝備兩洲
の主にまでなつた正則が、
只一代で其の家を潰してし
まつたといふのは、村正の
劍故と申しても差支ない位
でございます、其の最も著る
しい事實は、正則に市之助
と云ふお子さんがありまし

た、或時傍近くお呼びにな
つて、
正「其方は母が戀しいか、
父が戀しいか」
とお尋ねになつた、之は
何處の家庭にも能くやる事
ですが教育者に伺ふと、さ
ういふ事を子供に尋ねる事
は宜くない事ださうござ

います、市之助も一寸當惑
をして阿母様の顔を見まし
た、奥様も心配なすつて、
若しお母さんが戀しいと云
つてお叱りを受ける様な事
があつてはならないと思つ
たから、夫となく目付で知
らせた、年は往かんが市之
助、才の廻る子で
市「私は母様よりお父さま
の方がお慕しうございま
す」
と申上げた
正「ナニ母より父が戀しい
と、夫に違ひないか」
市「ハイ、夫に相違ござい
ません」
喜ぶかと思ふと正則面色
を變へ

て子を斬ると云ふは狂人に
も等しき業、何故左様な御
短慮をなさいましたかと、
何れも涙を振つて御意見を
すると、正則始めて夢より
覺めたる如く
正「ア、予は取逆上たと見
える」
と大きに御後悔をなされ
たが、之正しく村正の劍の
崇りに相違ございませぬ所
が其の後に又々一人の罪も
なき婦人を切つたといふお
話でございます。

品質第一

電話二六八番

平搾乳所

平町・九品寺前

イワキ
サロン

電 352

美味で！
評判の……

耳鼻咽喉科専門

氣管食道科

平南町 (電話一七〇番)

大和田醫院



旭硝子株式會社製品

板ガラス

製造販賣
赤菱印
硝子 壺
硝子 食器
其他 各種

松崎硝子製作所

平町新川町 (電話一四二番)
仙臺市榮町 (電話五九七番)

貸切の……

御用命は!!!

獅子吼 (四四九) ノ勢デ

眞先ニ…… (マツサキ)

三九二タクシーへ!!!

外科

X 光線科
性病科
外科

入院隨意

平町 田町

安齊外科醫院

電話四七五番